

会 議 録

会議名 (審議会等名)		平成30年度 第10回 相模原市総合計画審議会				
事務局 (担当課)		企画政策課 電話042-769-8203(直通)				
開催日時		平成30年12月25日(火) 18時00分～19時40分				
開催場所		相模原市役所第2別館3階第3委員会室				
出席者	委員	26人(別紙のとおり)				
	その他	1人				
	事務局	16人 (企画部長、企画政策課長 他14人)				
公開の可否		可	不可	一部不可	傍聴者数	6名
公開不可・一部不可の場合は、その理由						
会議次第		開会 1 議事 (1) 基本構想(答申案)について (2) 平成30年度の市民参加の取組について (3) その他 閉会				

審 議 経 過

主な内容は次のとおり

(委員の発言、 副会長の発言、 事務局の発言)

開会 椎橋企画政策課長

1 議事

金森副会長の進行により議事に入った。

(1) 基本構想 (答申案) について

- 前回の審議では、次期総合計画は行政計画であると説明があり、その点について議論があったが、これからは、すべてを行政のみで行うことには限界があり、市民、NPO、自治会等の得意分野を生かしていくことが大事であると発言をしたが、資料2では私の意見が反映されていない。

そのような意見があったということは、記録しておく必要があるのではないか。また、発言の趣旨については答申案において、「協働によるまちづくり」や「わたしたち」として、盛り込まれているのではないか。

考え方については、市民協働としてこれまでも説明してきたところ。なお、資料2の体裁として、意見に対し個別具体的な対応を記載する形とさせていただいたため、記載はしなかった。会議録では、記載してあるのでご理解を頂きたい。

- 横浜市の総合計画では、前半部分の現状と課題の記載がなく、各政策の説明のみとなっている。「市はこうしていきます」としたほうがインパクトがあると思う。また、全体がぼんやりしているように感じている。過去の審議で政策に優先順位はつけないとの話であったが、市民アンケートの結果が第1に交通、第2に保育となっているなか、このように市民の意見を反映させていますという回答があってもよいのではないか。

基本構想は概念的なものであり、優先順位などは基本計画で表していけばよいと考えている。また、前文については、これにより具体性が増していると感じている。

- 各政策で何を行うかは、タイトルで表現しており、そのうえで背景と政策の詳細が書かれている。答申案は分かりやすく、丁寧であると感じる。

- 現総合計画の成果指標を踏まえ、次期総合計画に繋げるものと考えているが、P D C Aのチェックが見えてこない。

現総合計画の進行管理の結果はどこで反映されるのか。

現総合計画において、初めて進行管理を導入したところであり、全体の総括は平成31年度終了後に行うこととなる。ただし、これまでも毎年度審議会から建議を受け、改善を図りながら施策を推進しており、その結果を踏まえ、次期総合計画の検討を進めてきたところである。また、これまでの進行管理の推移は、「基礎データ集」にも示しているところである。

やはり、P D C Aのチェックが抜けているように感じる。今後、基本計画の検討の中でチェックを生かしていきたい。

【基本理念】

- 政策9と政策10では、圏央道やリニア中央新幹線による広域交通の変化を取り上げている。一方、基本理念における相模原市の都市構造を考え直さなければいけない理由が、人口減少と先端技術だけとなっているが、交通インフラの変化も大きなポイントであるため、記載を検討いただきたい。

交通体系を地域資源として、「そうした社会の変化に対応し」以降に盛り込む方法も考えられる。検討いただきたい。

【政策4】

- 過去にも議論があったが、「自ら尊い命を絶つ」という表現が、長期的のできる限り希望を示すべきである基本構想の趣旨に馴染まないと感じる。「例えば、全ての世代の人が心豊かに過ごせるよう」など、プラスの面を押し出す表現を検討いただきたい。

これまでも議論があった箇所ではあるが、最初はどのような表現であったか。

事務局案としては、当初「だれも自ら尊い命を絶つことのない社会」と提示させていただいた。委員より「誰もが健康で楽しく幸せに、自分の命を全うできる社会」との提案を頂いたところであるが、これを事務局において検討する中で、事件や不慮の事故などもその表現に含まれてしまうのではないかと懸念があり、自殺対策基本条例の理念にある表現にさせていただいた。

○文章が明るいイメージになるよう、例えば「命の尊さを皆が認識できるような社会」はどうか。

意見のあったような内容に修正が可能か、再検討いただきたい。

【政策5】

○ 既に含まれているのかもしれないが、性同一性障害などへの尊重といった文言は記載しなくてよいのか。

LGBTの差別解消については、目指すまちの姿 の「年齢や性別、国籍、生涯の有無など」の性別に一つの考え方として含まれている。

○ 目指すまちの姿 では性別と記載はあるが、政策5では「性別による固定的な役割分担意識」とあり、LGBTを読み取ることができない。

○ 「性別による固定的な役割分担意識の解消」にLGBTは含まれているのか。もしくは、あえて表現していないのか。

あえて表現しなかった経過はない。

○ そうであれば、固定的な役割分担意識とは違う考え方であるため、例えば「性の多様性への理解促進」「性的自認・性的指向に対する偏見や差別の解消」などがよいのではないか。

○ 「個人の能力や資質とは関係なく、性別によって決められることのない社会」という表現ではどうか。

意見を参考に、再検討いただきたい。

【政策7】

○ 「防犯対策」とあるが、対応する犯罪は「特殊詐欺」ではなく窃盗や強姦など防犯に関わる表現がいいのではないか。

特殊詐欺と書いた意図はなにか。

いくつかの候補がある中で、今日的な事案として選定した。一般的な犯罪を記載するかについては検討したい。

- 「これまで以上に求められている」とあるが、法的な義務として取り組むなか、なぜ「これまで以上に」取り組む必要があるか説明がない。高齢化といった記載を加えてはどうか。

高齢化を原因とするのであれば、特殊詐欺と書いた理由もわかるが、意図を表現できるよう検討いただきたい。

【政策 8】

- 住民の協力がなければ進められないものと思うので、そのニュアンスが必要ではないか。市民への積極的な理解・協力の依頼といったものを記載してはどうか。

持ち帰って、再度検討したい。市民協働は基本的な考え方としてあるが、具体的に記載する必要があるか、改めて検討していきたい。

【政策 9】

「社会情勢などの変化に適應できるまち」は、かなりぼやけた印象がある。コンパクトシティを進めていくと決めたわけではないが、そうしたニュアンスがもう少し伝わるような表現はできないか。

これまでも審議会において、意見をいただき修正してきたところであるが、分かりにくいということであれば、再検討したい。

「社会情勢などの変化」が分かりにくく感じる。1段落目の「人口減少、超高齢化」がそれを指しているということであれば、それらの表現をここに記載してもよいのではないか。検討いただきたい。

- 基本構想に記載できるかはわからないが、まちづくりの一つとして、ボランティアが、空き地、空き家を活用し、畑や親子の広場などとして利用する事例もあり、このようなことも今後進めていければ良いと思う。

具体的なアイデアは、基本計画で検討するが、市民参加の観点も政策 9 においても生かす必要がある。

【政策 1 1】

- 基地の返還については粘り強く進めていく必要があるが、一方で合同での避難訓練を行うなど、共生している実態もある。基地と共生し、相互理解を進めることにより、基地の返還が達成されるという考え方もある。そのようなニュアンスを盛り込んで良いのではないか。
- 世界の米軍基地については縮小・返還が進む中、日本のみ強化されているという状況を踏まえた時、長年の市是である返還を基本構想で位置付けることが重要である。現実には、地域と良好な環境を構築するという努力は認めるところではあるが、市としての市是という意味では共生を含ませることは、微妙な問題であると考えている。
- 米軍との友好関係、地域住民とのコミュニケーションが存在することも確かではあるが、本市において米軍基地は市民生活・計画的なまちづくりの障害であり、それは別問題として全面返還を目指していくことが基本であるため、基本構想としてはこの表現で適切でないかと考える。ただし、意見のとおり共生の意識は必要である。

全面返還に向け、具体的にどのように進めていくかについては、基本計画において、検討していきたい。また、返還に当たっては、国との連携も必要であるが、同様に基本計画で検討していきたい。

答申に向けた細かい内容の修正については、会長と事務局に一任願いたい。

(2) 平成 3 0 年度の市民参加の取組について

事務局より、市民参加の取組について説明を行った。

- フィールドワーク報告会の傍聴をしてきたが非常に良いものであった。結果を皆で共有できるよう、DVDで報告会を見れるなど複数の情報発信のチャンネルがあればなお良い。今後も、若者を巻き込むというか巻き込まれる仕掛け作りが必要であると思う。
- 学生がこのようなものを企画する場合、集客が大きな課題になるため、今度傍聴など積極的な参加をお願いしたい。
- 若者の意見を総合計画にどう反映するかが重要である。これが市民参加で十分

に行われているか、課題意識を持って取り組んでいただきたい。

- フィールドワークでは観光客増加を目指した地域資源の発掘・発見といった検討も進められていたが、報告内容が（一社）相模原市環境観光協会など関係する協会・組合に情報が降りてくるようになれば良いのではないか。

（３）その他

傍聴者の資料の持ち帰りについて、制度所管課における現時点の検討状況を報告した。

- 審議会を行うに当たり、可能であればスクリーンなどに発言内容やポイントを投影するなど、わかりやすい進行となるよう、検討を頂きたい。

ホワイトボードに記載するなどでも、理解は進むと考えられるので、可能であれば検討いただきたい。

本日の議事は終了とする。

閉会

椎橋企画政策課長

以 上

相模原市総合計画審議会委員出欠席名簿

	氏 名	所 属 等	備 考	出欠席
1	吉田 民雄	総合政策プランナー	会長	欠
2	金森 剛	相模女子大学人間社会学部社会マネジメント学科教授	副会長	出
3	松永 千賀子	相模原市議会議員		出
4	五十嵐 千代	相模原市議会議員		出
5	阿部 善博	相模原市議会議員		出
6	須田 毅	相模原市議会議員		出
7	岸浪 孝志	相模原市議会議員		出
8	加藤 明德	相模原市議会議員		出
9	永井 博	相模原市教育委員会教育長職務代理者		出
10	高橋 三行	相模原市市農業委員会会長		出
11	小泉 幸隆	相模原市農業協同組合代表理事組合長		欠
12	杉岡 芳樹	相模原商工会議所会頭		欠
13	水谷 好男	相模原市立小中学校PTA連絡協議会副会長		出
14	坂本 堯則	相模原市自治会連合会会長		出
15	小山 龍次	公益社団法人相模原青年会議所理事長		欠
16	戸塚 英明	社会福祉法人相模原市社会福祉協議会会長		出
17	石井 トシ子	特定非営利活動法人男女共同参画さがみはら代表		出
18	幸山 隆	相模原地域連合事務局長		出
19	竹村 克二	一般社団法人相模原市医師会会長		出
20	荒井 容子	法政大学社会学部社会学科教授		出
21	中田 恭子	青山学院大学理工学部化学・生命科学科准教授		出
22	長野 基	首都大学東京都市環境学部都市政策科学科准教授		出

23	西田 恵一郎	和泉短期大学児童福祉学科准教授		出
24	大谷 聡穂	公募委員		出
25	栗田 愛子	公募委員		出
26	高田 泉	公募委員		出
27	林 佳美	公募委員		出
28	牧瀬 稔	相模原市緑区区民会議会長		出
29	飯島 泰裕	相模原市中央区区民会議会長		出
30	松下 啓一	相模原市南区区民会議会長		出